

FLC学びのエリア

<志村四中・志村坂下小・北前野小・緑小・志村小>



令和7年6月2日
板橋区立志村小学校
校長 佐久間 康弘
令和7年6月号
志村小ホームページ

学校スローガン「みんなが笑顔」

<http://www.ita.ed.jp/edu/simuraes/>

青葉・若葉の生長とともに

副校長 橋本 暁

あらとうと 青葉若葉の 日の光

松尾 芭蕉



「奥の細道」の旅に出た松尾芭蕉が日光でよんだ句です。

元禄2年の旧暦3月27日に江戸を発った芭蕉が、日光に立ち寄ったのが4月1日とあります。新暦で言えば五月初め。きっと芭蕉が出発した日は、五月晴れだったのではないのでしょうか。

今、志村小の校庭の桜は緑の美しい葉桜を経て、「青葉・若葉」の時を迎えています。

休み時間になり校庭に出ると「先生、これ見て。」と、子供たちが手のひらにしまっているものを差し出してくれます。手のひらには、小さなモンシロチョウの幼虫がいたり、ヤモリがいたり。時には、生き物について図鑑で調べ、報告してくれる子もいます。

心と体を成長させながら子供たちの目は、日に日に広がっていきます。今まで知らなかったことや、体験しなかったことに触れて「おやっ、何だろう」と目をとめます。

友達のこと、家族のこと、自分のこと、そして大自然のこと、社会のこと、将来のことまでも、子供たちの関心は次々に広がっていきます。子供たちは、まっすぐに様々なことと対面します。そして、その一つ一つのことを具体的に観察し、そして考えるのです。

大人が「花はきれいだ。」とおおざっぱに表現するところを、子供たちは一つ一つ見つめます。きれいといっても、様々です。色があざやかということも「きれい」ということです。形・姿が整っていることも「きれい」ということです。そうした子供たちの心に触れることによって、他の子もまた、自分の心を広げていくのです。

今年度、本校では「共学共創」の理念のもと、研究主題「児童の学びに向かう力の育成」とし、児童が主体的に学び、自分の課題を克服する力を育成していきます。

特に、生活科・総合的な学習の時間では、子供たちは見つけた問題を、解決の仕方を工夫しながら探究的に学んでいます。学びの中で、子供たちは地域に足を運んで自然や施設を観察したり、地域の方からお話を伺ったり等の体験を通して理解を深めます。

その結果、子供たちが「問題を見付け、追究意欲を高める」・「他者と共に学ぶことのよさを感じる」「他者に認められることで自信を付ける」「学ぶ楽しさを実感する」ことができれば、子供たちの学びに向かう力は高まると考えています。

木々がたくさんの枝葉をつけ、立派な大木になるには、根の部分がしっかりしていなくてはなりません。子供たちの成長も同様です。

様々な支援や耕しが必要でしょうし、その成長の源となる基礎基本の部分（心と体）がもっとも大切です。心にも体にも、十分な栄養を与えながら、周りは温かく見守ってほしいものです。

学校にある青葉・若葉の成長とともに、志村の子供たちも元気にすくすくと成長することを楽しみにしています。